

# 生徒の内面を引き出す問いかけで、「マイ・ストーリー」の構築を支援

総合型選抜と学校推薦型選抜（以下、年内入試[\*1]）の募集枠の拡大に伴い、同選抜による大学入学者数が増加している。教科指導に加え、年内入試で重視される志望理由書の作成や面接などに臨む生徒に対する支援が教師に求められる中で、学校、そして教師は、どのような課題に直面しているのだろうか。P.10以降の実践事例に登場する3校の教師が語り合った。

熊本県立宇土中学校・宇土高校  
探究部長、進路指導主事  
**後藤裕市**  
プロフィールは P.16

広島県・私立広島桜が丘高校  
1学年主任  
**沖村将彦**  
プロフィールは P.13

東京都・私立トキワ松学園中学校高校  
進路指導部長  
**加藤美恵子**  
プロフィールは P.10



ベネッセコーポレーション  
教育情報センター センター長  
**谷本祐一郎**  
全国の高校教師向けのセミナーの企画、大学入試や教育動向の分析を統括



ベネッセコーポレーション  
高大接続部 部長  
**富田泰成**  
高校生と卒業後の進路先の接続を深めるためのサービス・教材の開発を統括

## 「マイ・ストーリー」とは……

生徒一人ひとりの「自分のこれまでの学びや活動、その成果や結果に至るまでのプロセス、これからの展望」を指す

「マイ・ストーリー」を描き、それを語る力が、これからの大学入試で希望進路を実現するために必要とされることを検証し、そうした力を生徒に育む教師の指導や支援のあり方・方法を、実践事例を通じてお伝えしたVIEWnext高校版 2021年8月号・特集はこちら ▶



**谷本** まず、ここ数年の年内入試の状況を整理します。年内入試による大学入学者の割合は、2021年度入学生で5割に達し、22年度入学生では一般選抜による入学者の割合を上回りました(図1)。国公立大学でも年内入試の募集枠は拡大しており(図2)、今後もその傾向が続くと考えられます。

**加藤** 年内入試の拡大は、本校の受験状況からも実感しています。7年前に私が3年生の担任を務めた時、クラスの3分の2の生徒は一般選抜の受験者でした。それが一転して、昨年度担任を務めた3年生のクラスでは、3分の2の生徒が年内入試を受験しました。

**谷本** それは大きな変化ですね。大学へのアンケート調査の結果を見ると、年内入試の選抜で最も重視するのは

近年の入試環境  
の変化における  
注目点は？

拡大を続ける年内入試では  
「マイ・ストーリー」が鍵に

\* 1 総合型選抜(旧AO入試)と学校推薦型選抜を指す。9~12月の年内に試験が実施され、合否が決まること多い両選抜を、ここでは「年内入試」と総称する。

# 年内入試支援

— 引き出し、共に創る「マイ・ストーリー」 —

## 図2 国公立大学で年内入試の募集枠が拡大

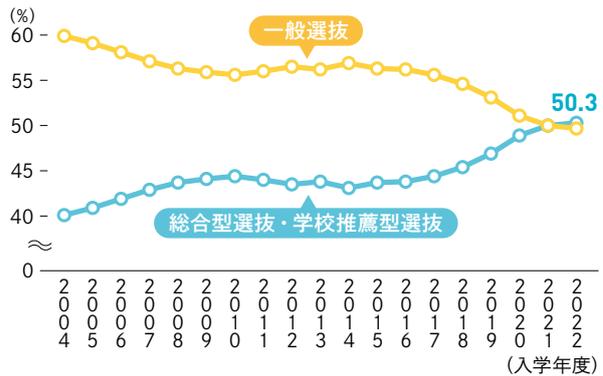
### ■ 2024年度入試 国公立大学の募集枠の変更点

会津大学	コンピュータ理工学部で学校推薦型選抜30人増(前期日程30人減)
宇都宮大学	工学部基礎工学科で総合型選抜を新規実施(定員10人)、学校推薦型選抜5人増(前期日程15人減)
埼玉県立大学	保健医療福祉学部で学校推薦型選抜27人増(後期日程40人を廃止、前期日程13人増)
東京工業大学	総合型選抜48人増、学校推薦型選抜30人増(前期日程78人減)。総合型選抜では、一般枠118人、女子枠58人
大阪大学	医学部保健学科で学校推薦型選抜4人増(前期日程4人減)
広島大学	総合科学部で総合型選抜6人増(前期日程6人減)
鹿児島大学	農学部で学校推薦型選抜36人増(前期日程36人減)

※ベネッセコーポレーション調べ。最新の情報は、大学のウェブサイト等でご確認ください。

## 図1 年内入試による入学者が5割超に

### ■ 総合型選抜・学校推薦型選抜の入学者の割合の推移



注1) 2021年度以降は「その他の選抜」の区分が新設されたため、20年度以前に学校推薦型選抜に含まれていた一部の選抜が別集計となった。

注2) 値は「一般選抜、総合型選抜及び学校推薦型選抜の入学者の合計」に対する各選抜の入学者の割合。

※文部科学省「国公立大学入学者選抜実施状況」を基にベネッセ教育情報センターが作成。

## 図3 年内入試で重視されるのは、「明確な志望動機」

### ■ 総合型選抜・学校推薦型選抜で重視すること

重視すること	総合型選抜 (%)	学校推薦型選抜 (%)
明確な志望動機 (大学・学部・学科で学びたい理由)	89	79
基礎学力	28	62
思考力、判断力、表現力などの資質・能力	55	54
コミュニケーション能力	63	53
何事にも前向きに取り組む姿勢	61	50
卒業後の展望 (社会に出た後にやりたいことやその理由)	55	43
自らの興味・関心に応じて行動できる力	47	39
協調性	45	38
社会の諸課題に対する関心や課題意識	33	28
興味・関心のある分野についての専門的な知識	27	21
リーダーシップ	28	20
各種大会や資格、探究活動などの目標を達成するためのプロセス	28	18
各種大会での受賞歴、各種資格の取得状況、探究活動の実績	24	17

※ベネッセコーポレーション「2021年度 学校推薦型選抜・総合型選抜に関する大学アンケート調査結果」を基に編集部で作成。

「明確な志望動機」で、思考力・判断力・表現力等の資質・能力のほか、「マイ・ストーリー」に不可欠な「卒業後の展望」も重視されています(図3)。

**沖村** 年内入試の対応としては、探究学習などを通じて生徒に資質・能力を育むとともに、生徒自身の学びの経験に基づいた志望動機や将来像を、生徒が他者に伝えられるようにすることが求められると思います。

**谷本** その通りだと思います。先生方と年内入試についてお話をすると、「本校では年内入試で評価されるような探究学習はできていないし、華々しい実績があるわけでもない」とよく言われますが、大学はそのような実績だけを評価するわけではないようです。ある大学の入試担当者は、どのような経験から何を学び、何ができるようになったか、そして、それを将来にどうつなげていくのかを明確化し、語れることを、年内入試において重視していると話していました(本誌22年10月号特集を参照「\*2」)。まさに図3の調査結果が示している通りです。

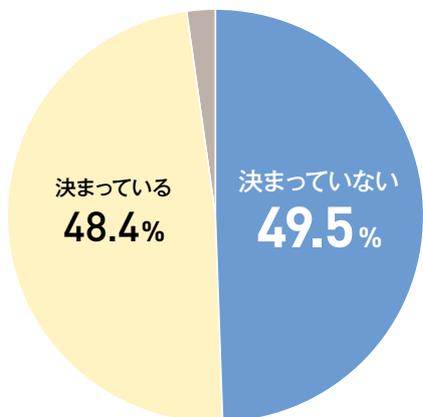
**後藤** 年内入試で合格した本校の生徒の志望動機を見ても、学校内外での学びを通じて育んだ資質・能力と、大学入学後までを視野に入れた展望を、自分の言葉で表現できていました。

\*2 2022年度10月号の特集「高大接続の視点で見通す2025年度大学入試」では、多面的・総合的評価を推進する4大学が、2025年度入試に関する方針や、その背景にある大学が求める人材像、大学の学びを通じて育成する資質・能力などについて語った。ウェブサイト『VIEW next ONLINE』の「高校版バックナンバー」(https://view-next.benesse.jp/view/cat/bkn-hs/)、または右の2次元コードからアクセスしてご覧ください。



図5 2年生で指定校型を希望しても、約5割が志望校“未定”

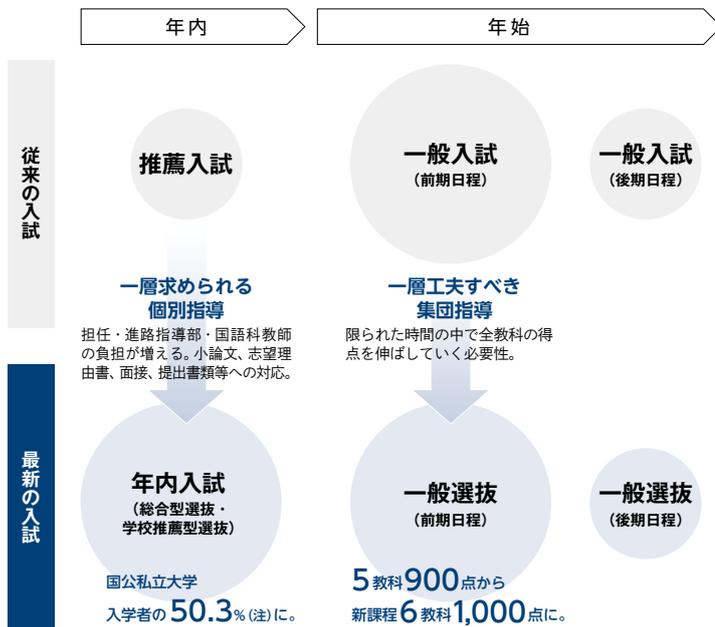
指定校型の学校推薦型選抜を希望する生徒の志望校決定状況



※スタディーサポート 2021 年度 2 年生 2 回の結果。

図4 年内入試の支援が拡大する分、指導の負担も増加

入試指導のボリュームのイメージ



(注) 値は「一般選抜、総合型選抜及び学校推薦型選抜の入学者の合計」に対する各選抜の入学者の割合。

※文部科学省「国公立大学入学選抜実施状況」を基にベネッセ教育情報センターが作図。

**谷本** 生徒の進路意識の面でも、学校全体での支援体制が必要ですね。

**沖村** 私は担当教科の地理歴史科に関する分野への進学を希望する生徒の支援はできませんが、それ以外は支援が難しい場合もあります。そうした点でも、

準備も必要となるでしょう。

**谷本** 年内入試の拡大によって、各校は進路指導体制の見直しを迫られています。例えば、大学入学共通テストで5教科を受験させ、後期日程まで志望校を諦めさせない指導が基本だった学校も、今後は年内入試志望者の支援が一層求められる可能性があります。そうなると、志望理由書や面接などで表現する「マイ・ストーリー」は生徒一人ひとりで異なるため、個別支援が必要となります(図4)。担任などの特定の教師に負担が偏らないような体制の整備も必要となるでしょう。

進路指導体制の見直しを。担任に負荷が偏るケースも



るデータがあります。指定校型の学校推薦型選抜を希望する2年生の約5割が、志望校が未定でした(図5)。

**沖村** 年内入試では「マイ・ストーリー」を語ることが求められることを早期に生徒に伝え、安易な進路選択をさせないようにしています。生徒によって目指す方向性や自己理解の解像度は異なりますから、支援の方法も1つではありません。私は生徒一人ひとりと対話をしながら、一緒に生徒の志向や将来像を掘り下げています。

**加藤** 私も同じです。生徒が「マイ・ストーリー」を語れるようになるまでには時間がかかりますが、生徒が自分の学びの経験と未来をつなげるためには必要なプロセスです。生徒との対話を通じて、「一緒に「マイ・ストーリー」をつくり上げることを大切にしています。」

**後藤** 本校の探究学習では、生徒が自分の関心のあるテーマについて、様々な学問や文献からアプローチして考察を深めていくようにするとともに、その探究が自分のキャリアにどうつながるのかも考えるよう、生徒に伝えています。そうした活動を通して志向と将来がつながり、「マイ・ストーリー」を構築することができれば、生徒は自分のやりたいことにこだわりを持てるようになるのだと思います。

図7 教師に求められる「引き出す」力

■ これからの指導に求められる教師の姿勢



入試の多様化による課題は、情報を「教える・伝える」ことだけでなく、生徒の希望進路や自主性を「引き出す」こと。

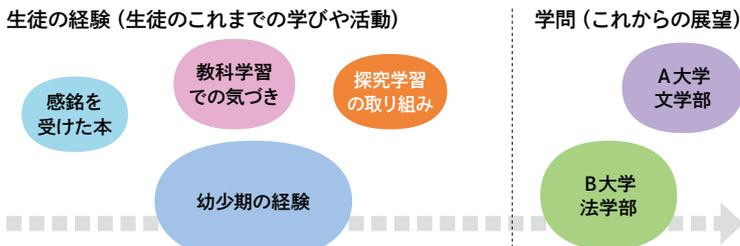


**後藤** 本校では生徒に、探究学習と自分のキャリアを結びつける視点を意識させています。そのためにまず、マイ・ストーリーを語り、その軸を整理し、自分の軸に基づき、経験や志向を整理する。感銘を受けた本や教科学習での気づき、探究学習の取り組みが結びつき、大学で学びたい学問は文学部にあると判明。それを踏まえると、説得力を持って志望動機を語れるように。

**谷本** 入試の多様化による進路指導上の課題は、生徒に情報を「教える・伝える」ことではないかと弊社では想定していました。しかし、それ以上に、生徒の希望進路や自主性を「引き出す」ことに腐心しているという声が多く寄せられていました(図7)。

図6 自分の軸に基づき、経験や志向を整理する

■ 「マイ・ストーリー」になっていない状態(例)



幼少期の経験から法学部を志望し、志望動機も幼少期の経験を踏まえて語っていたが、その経験と志望校のつながりが薄く、説得力に欠けている。

■ 「マイ・ストーリー」になっている状態(例)



内面を掘り下げると、自分の関心や強みといった軸が明確に。そして、その軸を基に自分の経験や志向を整理すると、感銘を受けた本や教科学習での気づき、探究学習の取り組みが結びつき、大学で学びたい学問は文学部にあると判明。それを踏まえると、説得力を持って志望動機を語れるように。

自分の軸を持って、経験や志向の関係性を整理

「マイ・ストーリー」が語れる状態とは?

**富田** 生徒の「マイ・ストーリー」づくりをどう支援すればよいのかを考えるために、「マイ・ストーリー」の状態を図式化しました(図6)。例えば、幼少期の経験を起点に語られた志望動機が、その経験と志望校のつながりが不明瞭であるがために、説得力に欠ける場合があります。それは、幼少期の経験の中で印象に残っていることを断片的に回想して、志望学問に後づけされているような志望動機です。一方、「マイ・ストーリー」を説得力を持って語れる生徒は、自身の関心や興味といたった自分の軸をベースにして、それまでの学びや活動とを結びつけて志望動機を語れていると考えます。

**沖村** 生徒が「マイ・ストーリー」を語れるようにするためには、教師が問いかけて、生徒が持っているものを引き出すことが一層大事になりますね。これからの教師には、「ティーチング」以上に「ファシリテーション」の力が求められ、生徒と一緒に探究していく姿勢が必要だと、強く感じています。

**加藤** 本校の生徒も同じような状況です。そこで、自分の内面を掘り下げるための方法を教えています。例えば、1つのキーワードを挙げて、「〇〇とは何か」「なぜ〇〇なのか」などの6種類の問いを立て、答えるという方法です。自分についての問いを立て、その答えを考えることを通じて自分の内面を深め、自分の軸を見いだしていきます。

## 学校・生徒の状況によって異なる教師の役割

### ■ 希望進路タイプ別 生徒の課題と目指す姿、教師の役割

<p><b>1</b></p> <p>国公立大学を 一般選抜・ 年内入試で 目指す生徒が多い 学校のケース</p>	<p><b>生徒 BEFORE</b></p>  <p>一般選抜と年内入試の両にら みの状況に対し、安易に志望 を下げてしまう姿勢から</p>	<p><b>学校現場で よく聞くお声</b></p> <p>●志望校へのこだわりがなく、教師・保護者の 認める大学へという志向は強い。</p>	<p><b>生徒 AFTER</b></p>  <p>希望する進路実現のために 学びに向かう姿勢に。</p>
<p>教師の役割は <b>入試形式に左右されない志望動機づくり。年内入試は手段の1つ</b></p>			
<p><b>2</b></p> <p>国公立大学を 年内入試で目指す 生徒が多い 学校のケース</p>	<p><b>生徒 BEFORE</b></p>  <p>拡大した年内入試に対して安 易な進路選択を行う姿勢から</p>	<p><b>学校現場で よく聞くお声</b></p> <p>●進路選択についての問いかけを工夫しても、 生徒の反応が薄い。大学選択は「行きたい」よ り「入れる」。指定校や総合型での選択となる。</p>	<p><b>生徒 AFTER</b></p>  <p>自分が生かせる志望先を探索・研究し、こだわりを持った 進路選択ができる状態に。</p>
<p>教師の役割は <b>「こだわり進路」の醸成で、進学後の後悔の回避を</b></p>			
<p><b>3</b></p> <p>大学・専門学校・ 就職など、 生徒の希望進路が 多様な学校のケース</p>	<p><b>生徒 BEFORE</b></p>  <p>これまでの経験によって自己 肯定感が低い状態から</p>	<p><b>学校現場で よく聞くお声</b></p> <p>●生徒の基礎学力と自己肯定感を高めたい。「や ればできる」を実感させたい。</p>	<p><b>生徒 AFTER</b></p>  <p>自分自身の可能性に気づき、 進路・学習に前向きになれる 状態に。</p>
<p>教師の役割は <b>積極評価で、生徒の自己肯定感を高め続ける</b></p>			



### 生徒の見えない部分を 引き出し、今後を考えさせる

**富田** 自校にどのタイプの進路選択をする生徒が多いのかによって、学校の課題は異なり、教師の役割も変わると想定されます(図8)。先生方は、どのような役割を特に意識されていますか。

**沖村** 図8の③に近い本校では、希望進路に向かう意欲を高めるため、まずは生徒に自信を持たせようと考えました。そこで、育成を目指す6つの非認知能力を設定し、その到達度を可視化して、褒めて伸ばす指導に力を入れています。教科学力とは異なる観点で多面的に評価することで、生徒に自分の可能性に気づき、進路に前向きになっ

てほしいと思っています。

**後藤** 図8の①に近い本校では、生徒本人が気づいていない視点に気づかせたり、視野を広げられるように働きかけたりして、自分のこだわりを引き出すことに努めています。例えば、本校が10分間の午睡の時間を設けていることを受けて、睡眠をテーマに自分の関心を掘り下げる活動を行いました。大学で睡眠を研究したいといった生徒もいれば、健康に関心を持って看護系学部を志望した生徒がいたり、睡眠の分析からデータサイエンスに関心を持った生徒がいたり、生徒たちの関心は1つのテーマから様々に広がっていきま

**加藤** 生徒一人ひとりが持つ潜在的な関心や疑問を顕在化させて、取り組みたいことを考えさせることは、生徒をずっと見取っている教師だからこそ果たせる役割ではないでしょうか。本校の有志の生徒で海岸の清掃活動をした際、ある生徒が風力発電の騒音に疑問を持ち、魚と振動の関係を研究しました。別の生徒は、海岸で拾った海藻を使って光合成について調べ、また別の生徒は、捨てられている衣類を問題視し、自然に還る繊維の開発に挑みました。いずれも清掃活動中に出てきた生徒のちょっとした発言を拾い、生徒とやり取りをしながら疑問を引き出したことが、探究に結びつきました。

生徒の「マイ・ストーリー」づくりを支援する3校の実践を、次ページから詳しく紹介

熊本県立  
宇土中学校・宇土高校

詳しくは、P.16～18

**実践1** 全教科で「問い」を起点とした授業を行い、生徒が自ら問いを立てる力を育む。

**実践2** 探究学習で行うプレゼンテーションなどの活動を、年内入試の対策と結びつけて実施する。

**設立** 1920（大正9）年  
**形態** 全日制／普通科／共学  
**生徒数** 1学年約240人（高校）  
**2022年度卒業生進路実績** 国公立大は、名古屋大、岡山大、九州工業大、九州大、熊本大などに54人が合格。私立大は、東京理科大、同志社大、立命館大などに延べ304人が合格。海外大学は、台湾・静宜大などに2人が合格。

広島県・私立  
広島桜が丘高校

詳しくは、P.13～15

**実践1** 「自考自創」のための6つのマインドを設定。各教科の単元末にそれらを自己評価し、自己肯定感を高める場を設ける。

**実践2** 6つのマインドを発揮した生徒について記入するシートを運用。各教師が入力して共有し、生徒を褒める。

**設立** 1963（昭和38）年  
**形態** 全日制／普通科／共学  
**生徒数** 1学年約240人  
**2022年度卒業生進路実績** 4年制大は、京都産業大、関西大、神戸親和、広島経済大、広島工業大、広島国際大、広島修道大、安田女子大などに延べ39人が合格。短大・専門学校進学75人。就職66人。

東京都・私立  
トキワ松学園中学校高校

詳しくは、P.10～12

**実践1** 高校1年次に学校設定科目「思考と表現」で、論理的思考力・表現力を育成し、生徒が自分の関心を見いだす活動を行う。

**実践2** 担任を中心に、教師と生徒が対話を丁寧に繰り返し、生徒が自分の関心や活動を進路につなげられるように後押しする。

**設立** 1916（大正5）年  
**形態** 全日制／普通科／女子校  
**生徒数** 1学年約130人  
**2022年度卒業生進路実績** 4年制大は、青山学院大、学習院大、慶應義塾大、多摩美術大、中央大、東京造形大、日本女子大、法政大、武蔵野美術大、明治大、立教大などに延べ137人が合格。短大・専門学校進学9人。

振り返ることで経験に  
意味を見いだし、軸が定まる

**谷本** 先生方のお話から、「マイ・ストーリー」づくりの支援として、教師が生徒の内面から関心やこだわりなどを「引き出す」ことの重要性を感じました。

**加藤** 教師がすべきこととして、私は「結ぶ」ことも大切にしています。生徒同士の探究、企業や大学など、生徒を他者や社会と結ぶことで、それまでにはなかった視点を得て自分の世界を広げ、「マイ・ストーリー」づくりにつながるからです。自然に還る繊維の開発に取り組んだ生徒は実験を重ね、稲わらを用いて繊維をつくりました。次の段階の実用化には企業が必要だと助言すると、自らアパレル企業60社以上に連絡し、その結果、ある企業から資金提供を受け、実用化に向けた研究ができました。生徒はその経験を基に、大学では循環型地捨地消システム構築について研究したいと「マイ・ストーリー」を語り、第1志望校に総合型選抜で合格しました。

**後藤** 挑戦し、それを振り返って価値づけすることを繰り返すうちに、経験に意味を見いだして、自分の軸が定まってくるのではないのでしょうか。本校の生徒も、1年次は自分の志向や関心が曖昧ですが、探究学習などで自分で問いを立て、追究し、その成果を発表して他者から評価を受け、改善するといったサイクルを繰り返すうちに、どのテーマでもマインドマップが書ける、つまり自分の軸を持ちます。

**富田** 進路を自分の意志で選択するための弊社の「進路達成プログラム」（\*3）に取り組む生徒の様子を見ても、生徒はまず、自分の軸を基にした志望動機が語れないという壁にぶつかります。その状態から、適性診断や他者の視点を通じて自己理解を深めるトレーニングなどを行い、大学などについての多くの情報を得てから志望動機を表現してみることで、生徒は徐々に「マイ・ストーリー」を語れるようになります。

**沖村** 皆さんのお話から、アウトプットの大切さが分かります。私は担当する歴史の授業で、歴史的事象を知らない人に説明するプリントを作成する。パフォーマンス課題を出しています。多くの生徒が楽しく、前向きに課題に取り組む姿を見て、問いの工夫次第で自分の可能性に気づかせ、進路や学習に前向きにさせることができると感じています。そして、そうして身につけた自分で学ぶ力が、自分の人生を創造することにつながるのだと思っています。

\*3 「自分の軸を持った進路選択」の達成を支援するための、ベネッセの進路学習教材。生徒それぞれが大切にしている意識や行動についての診断結果を基に、大学などの情報を提供する無料プログラム。「進路達成プログラム」の詳細は、ベネッセハイスクールオンラインで紹介。ログインにはIDとPWが必要。  
[https://bhso.benesse.ne.jp/hs\\_online/info/shinro-pgm/index.html](https://bhso.benesse.ne.jp/hs_online/info/shinro-pgm/index.html)